



環境レポート



2000

ごあいさつ

人類が誕生以来、豊かさを求め営々と築いてきた高度文明社会の帰結が、いまや地球環境の崩壊を招きつつあり、このままでは我々の子孫に破産した地球の経営権を相続させざるをえず、破滅への道をたどらせる結果となりかねません。

地球環境保護の問題は、国や地域の垣根を超えて取り組まねばならないテーマであり、社会の成員として大きな役割を担う企業の責任も、当然ながら極めて重いものがあります。

(株)NTTデータは、情報処理システムの提供を事業活動として行っている企業です。

情報処理システムは、本来ヒトやモノの移動を代替し、環境負荷を低減させる環境に優しい仕組みであり、当社の事業活動を押し進めることが、直接・間接に環境保護に役立つと考えております。ただ一方で、情報システムを構築する過程で多くの資源・エネルギーを使用していますし、情報処理システム自体も、少なからず環境影響を発生させる原因となっていることも確かです。

このような状況をふまえ、当社は、謙虚に企業の社会的責任を果たし、社会の持続可能な発展に寄与するため、環境保護を常に意識した事業活動を行っていくべきだと考えております。

このような考えに基づいて、ISO14001審査登録の取り組みなどを積極的に行い、できるだけ環境活動に関する情報開示を行っていく所存です。

本「環境レポート」は、環境情報の体系的な開示の第一歩であると認識しております。本レポートを継続的に発行することを通じ、皆さま方のご意見を反映させていただくとともに、よりよい環境保護活動を推進していく原動力となることを期待しています。

2000年6月

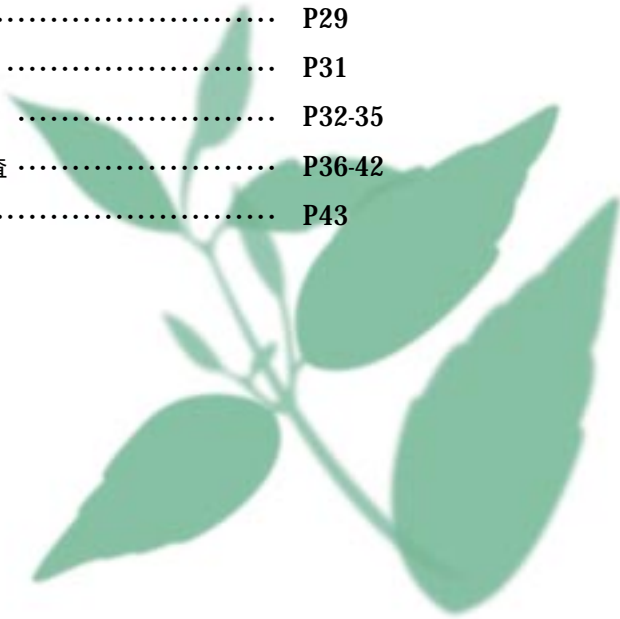
株式会社 NTTデータ

代表取締役社長 青木 利晴



CONTENTS

代表者ごあいさつ	
NTTデータ環境方針	P02-03
環境保護活動推進体制	P04
環境保護活動3つの柱	P05
環境側面と環境活動への取り組み	P06-07
ISO14001の導入	P08-09
環境マネジメントシステム/エコ・プロモーター制度	P10-11
環境行動計画	P12-13
行動目標の概略	P15
環境に配慮したシステム・機器開発	P16-17
環境に配慮した建築設計・施工	P18-19
グリーン購買	P20-21
省エネルギー/電気使用量の削減	P22-23
コピー用紙購入量削減&コピー用紙リサイクル	P24-25
環境教育の実施	P26
環境情報の公開	P27
環境ビジネスの実例	P28
社会貢献活動	P29
環境管理責任者の活動評価	P31
エコ・プロモーターの座談会	P32-35
社員環境意識アンケート調査	P36-42
会社概要	P43



海のために、森のために、空のために、
そして地球のために。
私たちはできることを一つずつ
実行していきます。



NTTデータ環境方針

人類は、今やかつて経験したことのない地球環境問題に直面しており、叡智を結集して環境保護活動に取り組むことが求められています。

情報から新しい価値を創造するNTTデータは、情報システムの「戦略立案からシステム企画、設計・建設、運用・保全までの総合的なサービス」をNTTデータグループの総力を結集して提供していくにあたり、情報システムが人や物の実際の移動を代替あるいは節減することで環境保護に資するものと認識するが、その事業活動が環境に大きな影響を与えていることを真摯に受け止めて、ここに環境方針を定め情報ネットワーク社会のトッププロデューサーに相応しい環境保護活動を断続的かつ計画的に推進していきます。

1. 環境に配慮した事業に推進

事業活動における環境への影響を低減させるため、可能な限り定量的な目的・目標を設定し、定期的に見直しを図りながら断続的改善に取り組みます。

- 1) 環境に配慮したシステム開発及び機器開発を進めていきます。
- 2) グリーン購入に積極的に取り組むとともに、環境に優しい建築設計にも配慮していきます。
- 3) 省資源・省エネルギー施策の展開、物品の利活用・リサイクルの推進及び廃棄物の削減などにより、汚染の防止と資源消費の抑制を図っていきます。

2. 環境関連諸法規等の遵守

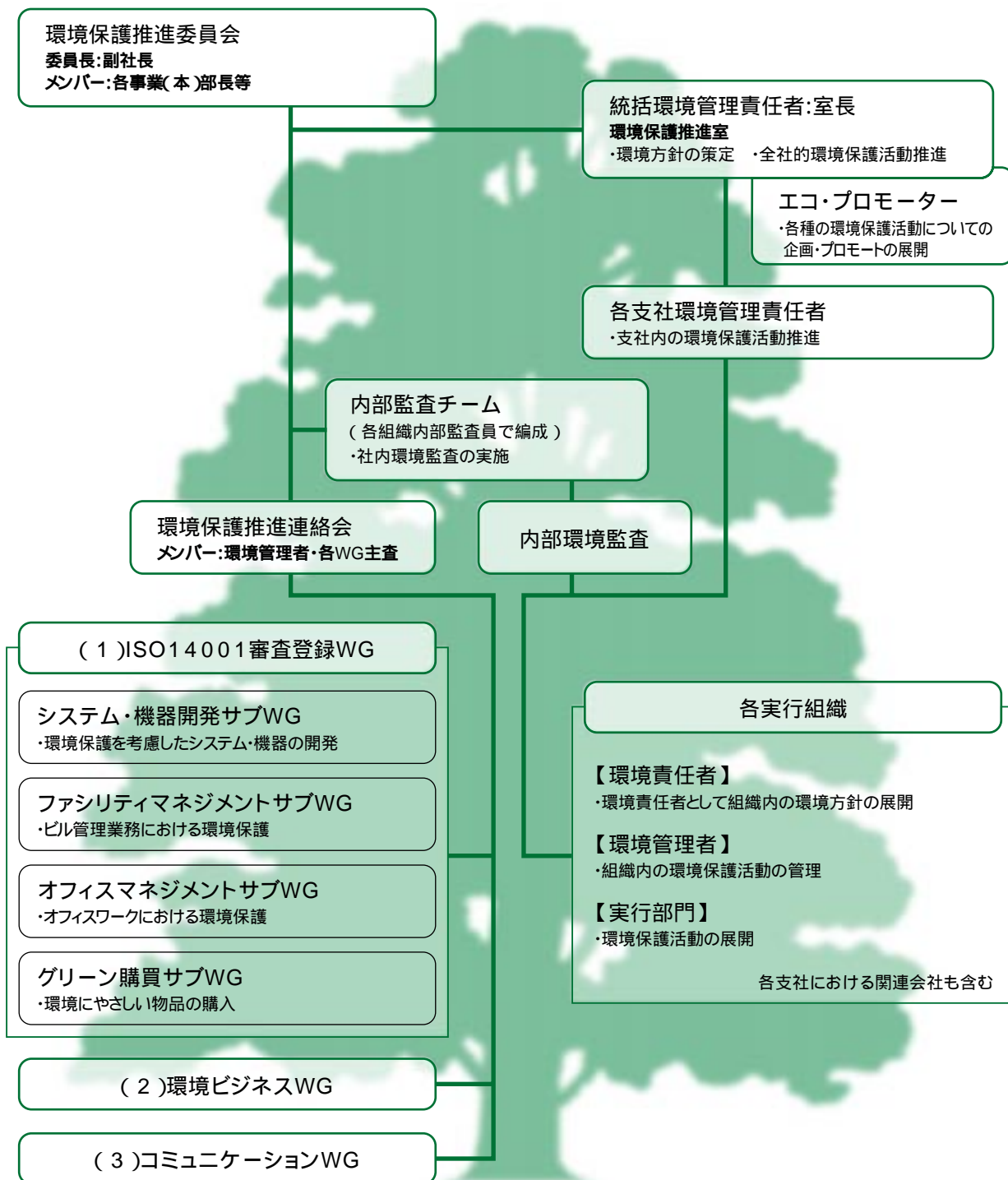
事業活動推進にあたっては、環境関連法規及びその他当社の合意した事項を遵守し、地球環境保護に資することとします。

3. 啓発活動の推進

社員及び協働者に対して環境に関する啓発活動を行い、意識の向上を図っていきます。

環境保護活動推進体制

環境保護活動を全社的に推進するための当社の体制です。



環境保護活動3つの柱

当社は、『NTTグループ・エコロジー・プログラム21』の精神にのっとり、「戦略立案からシステム企画、設計・建設、運用・保全までの総合的なサービス」をNTTデータグループの総力を結集して提供していくにあたり、情報システムが人や物の実際の移動を代替あるいは

節減することで環境保護に資するものと認識しつつも、その事業活動が環境に大きな影響を与えていることを真摯に受け止めて、次の3つの活動を柱に、情報ネットワーク社会のトッププロデューサーに相応しい環境保護活動を推進することとしています。

ISO14001 審査登録活動

企業の社会的責任を全うし、情報ネットワーク社会のトータルプロデューサーに相応しい環境保護の仕組みを確立するため、全社的枠組みで環境マネジメントシステム(EMS)を構築する。

企業プレゼンスの向上

環境NPO等外部団体との連携、寄付活動等社会貢献活動等を通じて環境保護の領域で、当社に相応しい活動を行うとともに、これまで培った情報処理システムのノウハウを活用して環境保護に資する情報システムの提供に努める。

社員の環境マインドの醸成

社内において環境保護の必要性・重要性についての普及啓発活動を幅広く展開していくとともに、省エネルギー、リサイクル等の「草の根的環境保護活動」を着実に推進する。

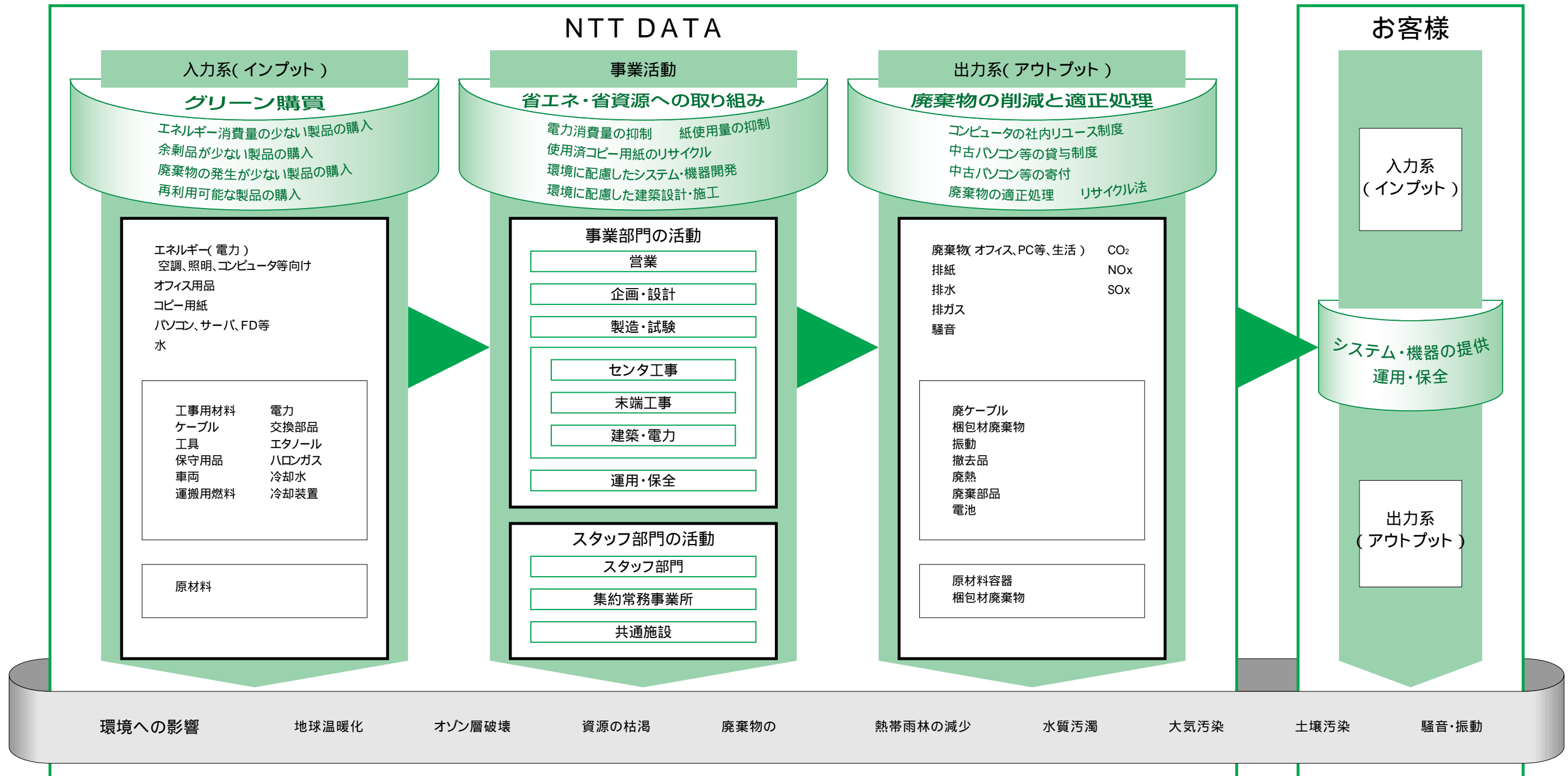
事業活動には、さまざまな環境側面があること 環境への負荷低減につながる努力を地道に

を認識して、 続けていきます。

当社の事業活動は、戦略立案からシステム企画、設計・建設、運用・保全まで広範な領域にわたっており、その過程でさまざまな環境側面を有し、大小各種の環境影

響を発生させています。また、当社の商品(サービス)がお客さまの下で発生させる環境影響も無視できません。当社の事業活動における環境側面を正しく認識し、

環境保護活動に活かしていきたいと考えています。以下に、当社の事業活動における全体像を示します。



豊洲センタービル、NTT品川TWINSデータ館 環境保護活動の中心とすべく、ISO14001の

において、 認証を取得しました。

当社では、ISO14001の審査登録に向けて、1998年から環境マネジメントシステム(EMS)の構築を進めてきました。そして1999年7月28日に、本社ビル(豊洲センタービル、NTT品川TWINSデータ館)において、はじめて審査登録(認証)を受けました。今後は、毎年一回のサーベイランスの時期に合わせ

てISO14001の対象範囲を逐次拡大していく予定で、2000年度には、本社ビルとして品川アネックスビル、築地ビル、三田ビルの3ビルを追加。支社についても、関西支社、東海支社、中国支社、九州支社の4支社(5ビル)への拡大を計画しています。



豊洲センタービル



NTT品川TWINSデータ館



日本環境認証機構による本審査総括所見

1. 経営者、環境管理責任者、サンプリングした部署の責任者等、及び一般従業員へのインタビュー、EMS文書及び記録の閲覧、環境関連施設等の現地チェックにより、貴EMSはISO14001規格に適合し、有効に機能しつつある、と評定します。
2. 貴社では、オフィス活動に伴う環境側面は勿論、主要な事業活動であるシステム・機器開発についてシステム開発標準手順STEADに対応した環境品質のつくり込みを行っており、効果的で特徴的なEMSとなっています。
3. 内部監査の品質は概ね良好ですが、今回はEMSのしくみの適合性審査に重点が置かれ、有効性や実施状況の細部チェックが相対的に弱かったこと、及び遵法性チェックリストが法令等の具体的な要求事項に即した精度レベルになっていない点が、次回以降の課題です。



ファシリティマネジメント事業部での社員インタビュー



購買部での社員インタビュー



金融システム事業本部での部門審査

ISO14001認証取得までのあゆみ

'98年8月24日 常務会で取り組み方針の審議・承認

'98年9月30日 JACO((株)日本環境認証機構)へ登録申請

'99年1月18日-19日 予行審査

'99年3月8日 環境マネジメントシステムの運用開始

'99年4月8日-9日 初動審査

'99年6月14日-16日 本審査

'99年7月28日 登録証交付

ずっと続けていく活動だから、継続的改善が これからも、一歩ずつ環境保護活動の向上を

必要です。 図っていきます。

環境保護活動は、これからずっと続けて行くものです。そのために必要なのが、EMS(環境マネジメントシステム)に沿った継続的改善=PDCA(Plan Do Check Action)です。当社では、環境保護推進委員会、環境保護推進連絡会、環境保護推進室を中心に、社会の一員として達成すべき環境負荷低減の目標を

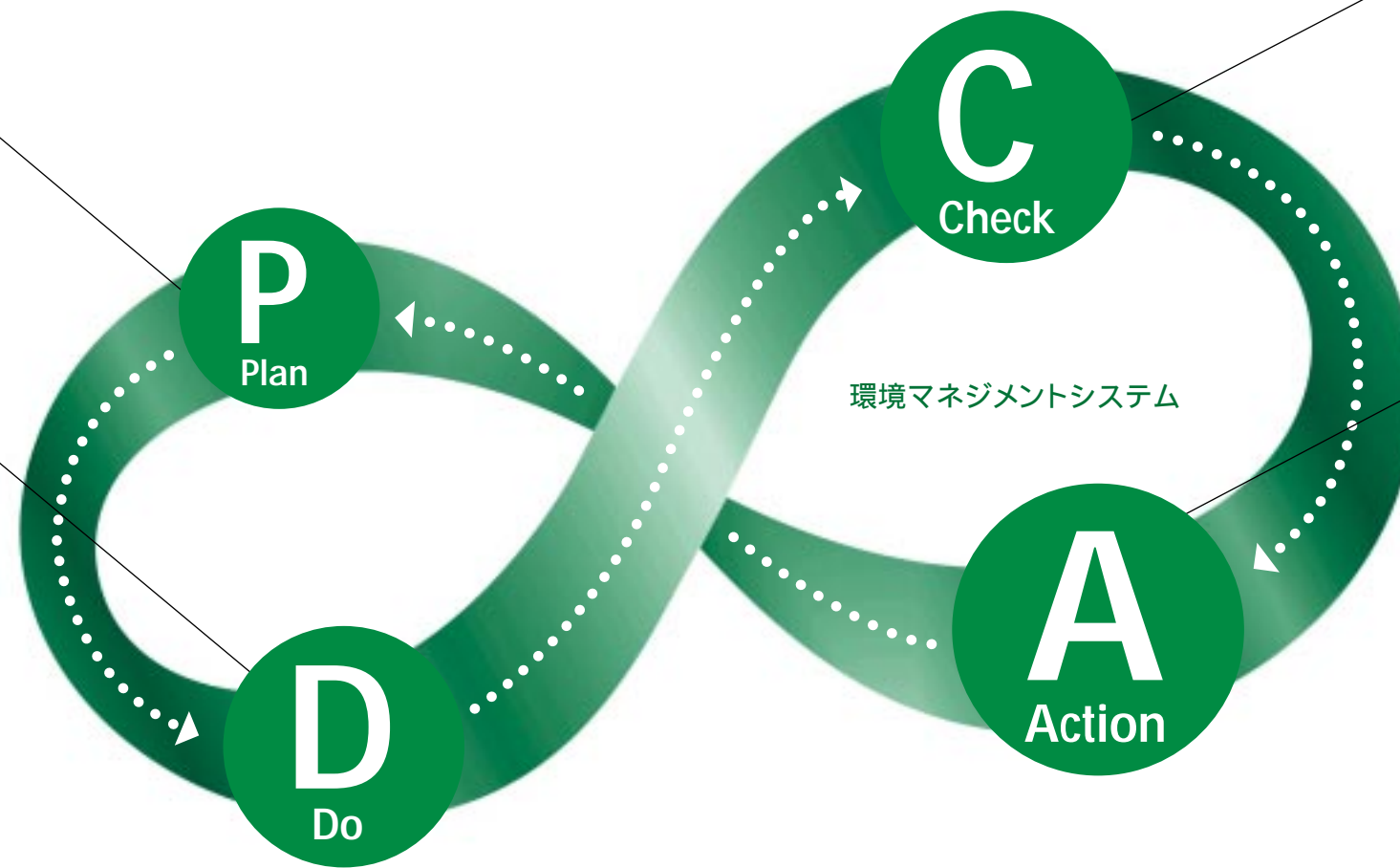
立て、実施・運用し、問題点を点検・是正し、見直しを行って次の目標に向かいます。2000年度には、1999年度の実績をふまえ、さらなる教育・研修、啓蒙活動などを行い、次の目標に向かって着実に環境保護活動の向上を図っていきます。

Plan (計画)

社会の一員としての責任を果たすべく、さまざまなデータを基に、環境負荷を低減するための目的と目標を各部門ごとに決めました。

Do (実施)

目的と目標を実行するために、組織・責任体制を決めるとともに、決定事項を速やかに伝える体制を確立しました。また、社員の環境意識を高め、システム開発にあたっては「環境に配慮したシステム・機器開発実施方法」としてマニュアル化なども行っています。



Check (点検)

活動については、定期的な会議で経営層に進捗状況を報告し、内部監査も行うなど、達成レベルを随時点検。不備があれば、速やかに指導し是正を図っています。

Action (見直し)

内部監査の結果、目標に対する進捗状況の報告を受けて、経営層ならびに環境保護推進委員会が、目標や仕組みの見直しが必要かどうかの判断を行い、次の目標や新たな仕組みが検討されます。

エコ・プロモーター制度

「一般の人」の視点で、
当社の環境保護活動への
提言やアドバイスをしてもらうよう、
社内公募による
「エコ・プロモーター」を設けました。

当社では、環境保護活動に特に関心のある社員を公募し、「エコ・プロモーター」として登録する制度を実施しています。この「エコ・プロモーター」制度は、通常の社内業務のほかに、「一般の人」の視点で、当社の環境保護活動への提言やアドバイス、環境保護活動

の各種企画にあたってもらうためのもので、みなさんにはボランティア精神で協力いただいています。現在のメンバーは、本社・支社の混合で22人。これから、この「エコ・プロモーター」を核に、さまざまな提言や、環境活動をプロモートしていければと考えています。



環境行動計画

項目	実施部署	現 状		
		(1997/1998年度)	1999年度	
環境に配慮したシステム・機器開発	全 社		50%	
環境に配慮した建築設計・施工	全 社		施工費1億円以上の工事対象 100%	
グリーン購買	全 社	4品目	13品目	
コ ー 用 紙	購入量削減	首都圏(豊洲ビル・品川データ館)	4,200万枚	5%減(4,000万枚)
		首都圏(品川アネックス・三田ビル・築地ビル)	2,200万枚	
		関西支社(堂島ビル)	860万枚	
		東海支社(伏見ビル・葵ビル)	830万枚	
		中国支社(比治山ビル)	270万枚	
		九州支社(博多駅前ビル)	450万枚	
		合 計	8,810万枚	
	再生紙利用率拡大	首都圏(豊洲ビル・品川データ館)	56%	80%
		首都圏(品川アネックス・三田ビル・築地ビル)	88%	
		東海支社(伏見ビル・葵ビル)	68%	
九州支社(博多駅前ビル)		32%		
合 計	65%			
電気使用量削減	首都圏(豊洲ビル・品川データ館 / 品川アネックス)	4,820万kw/h	5%減(9,840万kw/h)*	
	首都圏(三田ビル・築地ビル)	2,475万kw/h		
	関西支社(堂島ビル)	4,719万kw/h		
	東海支社(伏見ビル・葵ビル)	879万kw/h		
	中国支社(比治山ビル)	880万kw/h		
	九州支社(博多駅前ビル)	750万kw/h		
	合 計	14,523万kw/h		
廃 棄 物	一般廃棄物削減	首都圏(豊洲ビル・品川データ館 / 品川アネックス)	353,000kg	廃棄量把握ルールの確立
		首都圏(三田ビル・築地ビル)	272,700kg	
		関西支社(堂島ビル)	171,160kg	
		東海支社(伏見ビル・葵ビル)	77,560kg	
		中国支社(比治山ビル)	97,040kg	
		九州支社(博多駅前ビル)	205,000kg	
		合 計	1,176,460kg	
	産業廃棄物削減	首都圏(豊洲ビル・品川データ館 / 品川アネックス)	48,480kg	廃棄量把握ルールの確立
		首都圏(三田ビル・築地ビル)	67,100kg	
		関西支社(堂島ビル)	72,910kg	
		東海支社(伏見ビル・葵ビル)	67,161kg	
		中国支社(比治山ビル)	79,370kg	
		九州支社(博多駅前ビル)	23,000kg	
		合 計	358,021kg	
ターボ冷凍機 フロンガス保有量削減	首都圏(品川データ館 / 品川アネックス)	3,050kg	手順書により保守	
	首都圏(三田ビル)	1,995kg		
	関西支社(堂島ビル)	6,200kg		
	東海支社(伏見ビル・葵ビル)	2,210kg		
	合 計	13,455kg		
工事・保守車両による 有害排出ガス削減	関西支社(堂島ビル)	21台		
	東海支社(伏見ビル・葵ビル)	14台		
	中国支社(比治山ビル)	25台		
	九州支社(博多駅前ビル)	13台		
	合 計	73台		

*見直し前の目標値

年度別目標値			目標値 (2003年度)	備 考			
2000年度	2001年度	2002年度		単位等	記事		
60%	70%	80%	100%	適用率			
施工費1億円以上の工事対象 100%	建設工事対象 70%	建設工事対象 80%	建設工事対象 100%	適用率			
20品目	23品目	26品目	28品目	品目数			
10%減(3,800万枚)	15%減(3,600万枚)	20%減(3,400万枚)	22%減(3,300万枚)	現状比			
5%減(2,100万枚)	10%減(2,000万枚)	15%減(1,900万枚)	20%減(1,800万枚)				
5%減(820万枚)	10%減(770万枚)	15%減(730万枚)	20%減(690万枚)				
5%減(790万枚)	10%減(750万枚)	15%減(710万枚)	20%減(660万枚)				
5%減(260万枚)	10%減(240万枚)	15%減(230万枚)	20%減(220万枚)				
5%減(430万枚)	10%減(410万枚)	15%減(380万枚)	20%減(360万枚)				
7%減(8,200万枚)	12%減(7,770万枚)	17%減(7,350万枚)	20%減(7,030万枚)				
98%	100%	100%	100%	再生紙利用率			
95%	100%	100%	100%				
75%	85%	90%	100%				
80%	90%	95%	100%				
94%	98%	99%	100%				
6%減(4,540万kw/h)	8%減(4,440万kw/h)	10%減(4,360万kw/h)	12%減(4,280万kw/h)			現状比	2,920万kw/h対象外
3%減(2,400万kw/h)	6%減(2,330万kw/h)	8%減(2,280万kw/h)	10%減(2,230万kw/h)				
2%減(4,620万kw/h)	4%減(4,530万kw/h)	24%減(3,590万kw/h)	25%減(3,540万kw/h)				
3%減(853万kw/h)	6%減(826万kw/h)	8%減(809万kw/h)	10%減(791万kw/h)				
2.5%減(858万kw/h)	3.5%減(849万kw/h)	4.5%減(840万kw/h)	5.6%減(831万kw/h)				
3%減(725万kw/h)	6%減(705万kw/h)	8%減(690万kw/h)	10%減(675万kw/h)				
4%減(13,996万kw/h)	6%減(13,680万kw/h)	13%減(12,569万kw/h)	15%減(12,347万kw/h)				
2%減	4%減	6%減	8%減	現状比			
廃棄量把握ルールの確立	2%減	4%減	6%減				
50%減	55%減	60%減	65%減				
廃棄量把握ルールの確立	2%減	4%減	6%減				
	2%減	4%減	6%減				
	2%減	4%減	6%減				
6%減	8%減	11%減	13%減			現状比	
2%減	4%減	6%減	8%減				
廃棄量把握ルールの確立	2%減	4%減	6%減				
	2%減	4%減	6%減				
	2%減	4%減	6%減				
	2%減	4%減	6%減				
1%減	3%減	5%減	7%減	現状比			
手順書により保守	手順書により保守	20%減	30%減				
		20%減	30%減				
30%減	60%減	84%減	100%減				
手順書により保守	手順書により保守	50%減	100%減				
14%減	28%減	54%減	74%減				
5台	5台	5台	1台			更改台数	更改車両発生 のつど低公害車へ 切り替え
1台	5台	2台	1台				
3台	2台	2台	1台				
2台	2台	2台	2台				
11台	9台	11台	5台				

システム設備に供給される電圧については対象外とする。

具体的な目標の達成に向けて、
わたしたちが実際に取り組んできた
環境活動についてご紹介します。

環境活動の初年度となる1999年度を 数字で検証しました。目標と実績は以下の通りです。

環境方針に定めた事項を、実際に企業活動の中で実践していくために、当社では、具体的な目的・目標数字を組織ごと、ビルごとに定めています。現段階では全社をカバーする目標にはなっていませんが、前ページで示したように、徐々に対象範囲を広

げて、最終的には全社をカバーする体制にしたいと考えています。

1999年度の各項目の具体的な取り組みについては、次ページ以降でご紹介いたします。

項目	統括責任推進部署	実施行動部署	1999年度	
			目標	実績
環境に配慮したシステム・機器開発	公共システム事業本部	関連組織	50%	100%
	金融システム事業本部	関連組織		該当案件なし
	産業システム事業本部	関連組織		100%
	新世代事業本部	関連組織		該当案件なし
			実施方法の検証・是正	
			1. 開発案件スケジュールの把握	
			2. 組織内周知、勉強会の実施	
			3. 実施方法適用運用管理	
環境に配慮した建築設計・施工	ファシリティマネジメント事業部	関連組織	施工費1億円以上の工事対象 100%	100%
			実施方法の検証・是正	
			1. 工事スケジュールの把握	
			2. 組織内周知、勉強会の実施	
			3. 設計方針適用運用管理	
グリーン購買	購買部	購買部	13品目	13品目
			実施方法の検証・是正及び対象品目の拡大	
			1. 取引先への協力依頼	
			2. 対象品目の追加(モデム等)	
			3. 事業本部等への周知・指導	
			4. 実績値の把握・分析	

コピー用紙	購入量削減	環境保護推進室	豊洲入居組織	5%減(4,000万枚)	2%減(4,100万枚)
	再生紙利用率拡大	購買部	品川DATA入居組織	80%	98%
電気使用量削減	環境保護推進室 (オフィス使用量)総務部	豊洲入居組織	豊洲入居組織	3%減(1,840万kwh)	6%減(1,760万kwh)
			品川DATA入居組織	3%減(8,000万kwh)	2%減(8,060万kwh)
			品川ANEX入居組織		
一般廃棄物削減	環境保護推進室	豊洲入居組織	廃棄量把握ルールの確立	ルールの確立	
		品川DATA入居組織			
		品川ANEX入居組織			
産業廃棄物削減	環境保護推進室	豊洲入居組織	廃棄量把握ルールの確立	ルールの確立	
		品川DATA入居組織			
		品川ANEX入居組織			

源流、つまり企画・設計段階で、独自の基準を環境負荷を低減するシステムや機器の開発を

設けて、進めています。

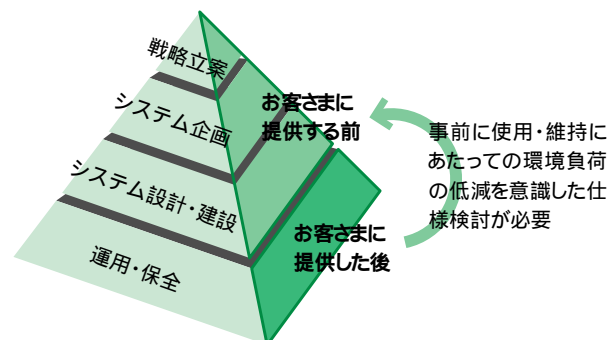


環境にやさしいシステムを開発するために、独自の管理手順を定めています。実際のプロジェクトにおいては、このマニュアルに沿って環境への配慮が評価されています。

システム
機器開発の
手順書

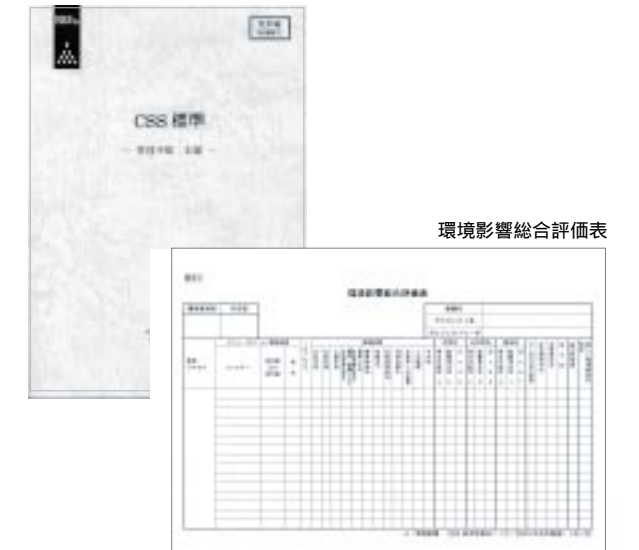
環境にやさしい開発をめざしています。当社の「商品」である情報システムは、人や物の移動を削減し、さらにペーパーレスシステムの実現など環境負荷を低減する役割を果たすものです。しかしながら、同時に機器作動に電力を必要とし、システム更改の際には、旧来の機器が廃棄物となっていることも確かです。当社では、お客さまのもとでの環境負荷を可能な限り低減させる仕掛けを、源流でつくりこむよう努力しています。

プロフェッショナルサービス基本概念



システム開発の各段階でチェックを行っています。

この企画・設計・開発における留意点を「環境に配慮したシステム・機器開発実施方法」として取りまとめています。特に、トータルで大量のエネルギー削減の可能性を秘めたクライアント・サーバシステムの開発にあたっては、開発時の必要条件として当社の「CSS標準管理手順」に盛り込まれており、開発の各段階でチェックできる仕掛けとなっています。



環境に配慮したシステム・機器開発実施方法 抜粋

(目的)第1条

本実施方法は、各組織で行われるシステム・機器の開発にあたり、システム・機器の使用時における環境影響を低減するために、開発の各工程の作業において考慮すべき事項を取りまとめたものである。

(目標と結果の把握)第11条

本実施方法を全てのシステム・機器開発に適用させることに努め、適用率についても把握し記録しておかなければならない。また、本実施方法を実施する以前のやり方と比較し、何の影響面でもどの程度環境に貢献したかを把握することに努めなければならない。

環境に配慮したシステム・機器開発の対象とする環境側面

インプット	ハードウェア	アウトプット	領域
<ul style="list-style-type: none"> 紙資源 オフィス用品 生活飲食物品 パソコン オフィス電力 	<ul style="list-style-type: none"> 企画 設計 	<ul style="list-style-type: none"> オフィス廃棄物 パソコン等廃棄物 生活廃棄物 	オフィス マネジ メント
<ul style="list-style-type: none"> 半導体 各種金属 ケーブル プラスチック 液晶 製造用電力 	<ul style="list-style-type: none"> 製造 試験 ソフトウェア組み込み 	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物 廃熱 排ガス 騒音 振動 	製造 業者等 の
<ul style="list-style-type: none"> 自動車等エネルギー 梱包材料 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送・配布 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車等排ガス 梱包材廃棄物 	お客 さま の 運 用 領 域
<ul style="list-style-type: none"> 運転用電力 空調用電力/ガス FD CD-ROM HD その他ハードウェア 	<ul style="list-style-type: none"> 使用・維持 予備機保管 廃棄物処理 リサイクル 	<ul style="list-style-type: none"> 廃熱 排ガス システム機器等廃棄物 紙廃棄物 FD等媒体廃棄物 	

人と、地域・社会と、自然の共生を図りながら、社会ストックとなる良質な環境配慮型の建築物をめざします。



新研修センターでの環境に配慮した設計のポイント

使う人にやさしい建物であること。地域・社会になじむ建物であること。そして、地球環境への負荷が少ない建物であることが、大切だと考えています。

まず、「新研修センター」で、実践しています。

当社では、自社ビルを多数保有しており、また新たな自社ビルの建築計画も進めています。また、新築ビル、その他賃貸ビルの内装工事等にも対応するため、独自の設計部隊を擁しています。

これらの建築設計や施工にあたっては、建物と環境が調和した「環境共生建築物」を建設するため、「建

物環境対策設計実施方法」等を定めて環境への配慮を行っています。

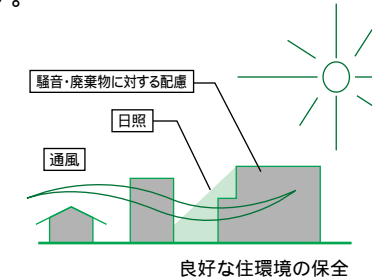
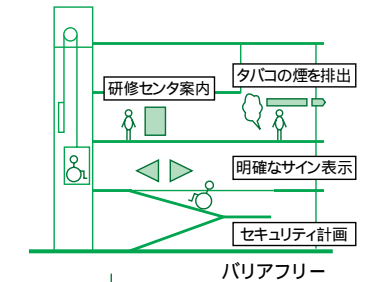
次ページに2001年3月に竣工予定の「新研修センター」における環境に配慮した設計の例をご紹介します。

物をめざします。

「人」との共生

あらゆる場面においてバリアフリーを考慮。建物を使いやすくしている要因を取り除くことにより、意識せずとも移動などがスムーズに行え、誰もが「研鑽」「交流」「共有」に積極的に参加できる建築物をめざします。

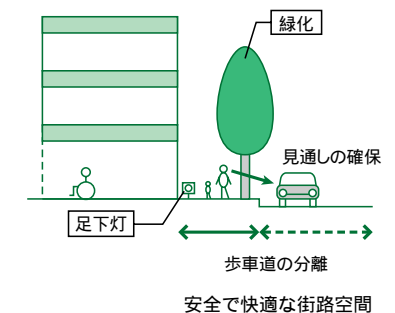
段差の解消や動作空間の確保、そして誰もが認識しやすいサイン計画などにより、建物内の移動をスムーズにします。喫煙する人、しない人にとっての心地よい環境を検討します。気軽に利用でき、簡単な操作で研修センター内の各種の情報を得られるシステムの構築をめざします。時間外利用に対応可能なセキュリティ計画を行います。



「地域・社会」との共生

企業市民としての立場から、周辺地域の良好な環境を保全し、さらに向上させる環境創造をめざします。また、地域に開かれた施設として部分開放するなど、地域住民に歓迎される施設とします。

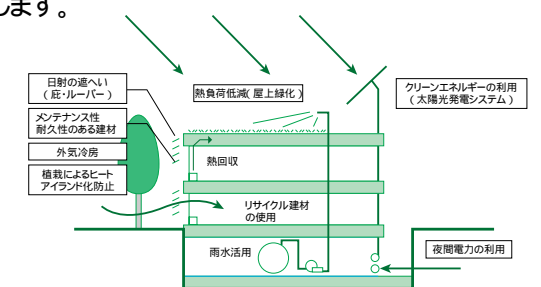
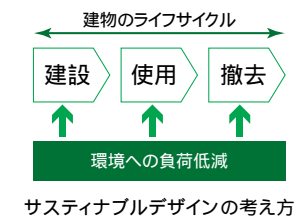
周辺の良好な住環境を損なわない、日影や通風に考慮した建物を検討します。見通しを悪くしている塀を撤去し、歩道を整備するなど、安全で快適な街路空間をつくります。建物の景観を街並みに調和させるなど、街をさらに魅力的にすることに貢献します。地域開放講座などの催しによって施設の地域開放をめざします。



「地球環境」との共生

建物を環境と共生させるとともに、永きにわたって存続させることをめざした「サステナブルデザイン」の考え方を導入。建設から使用、撤去に至るまでのライフサイクルにおいて、地域環境への負荷の低減をめざします。

ライフサイクルCO2を低減するために、既存建物の撤去から新築工事、ランニングエネルギー、撤去に至るまで、省エネルギーやリサイクルを考慮します。またオゾン層、人体の健康に対してケアできる資源・材料を使用します。建物に耐久性のある建材、メンテナンスフリーな建材を極力使用することにより、長寿命化を図ります。建物をできる限り緑化し、熱負荷を低減しヒートアイランド化の防止に努めます。



地球環境の共生に配慮した建物イメージ

製品の購入段階から環境配慮に努め、 環境への負荷が少ない製品やサービスを積

極的に利用しています。

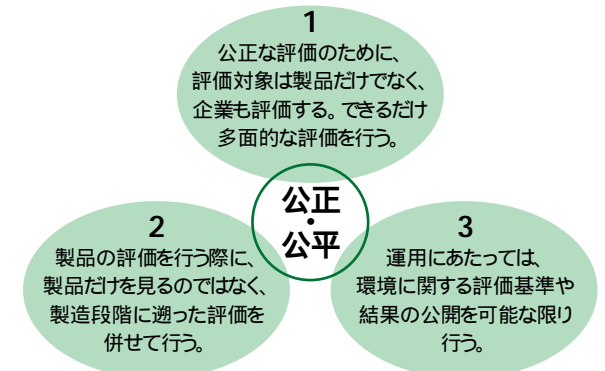


さまざまな評価基準を設け、 公正・公平な購入を心がけています。

環境への負荷が少ない製品やサービスの優先的購入を進める「グリーン購入ネットワーク」。その環境保護に果たす役割を十分に認識し、当社でも需要者の一員として積極的に「グリーン購買」に取り組んでいます。グリーン購買は、顧客という立場から関係する企業への影響も大きく、またそれに関連するさまざまな社会的

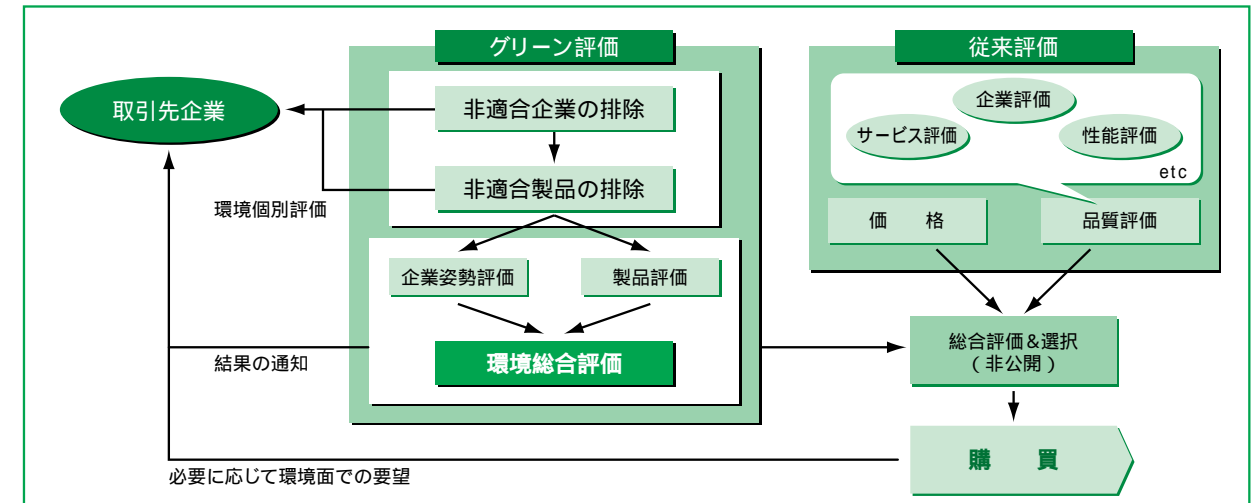
側面を持っています。

また、この取り組みが公正さと公平さを欠くと、実害を生じる恐れがないともいえません。従って、当社では次ページの方針に基づき、購買システムを構築しています。



仕組みの全体像

「価格」と「品質評価」という従来の評価要素に加え、環境から見た「企業姿勢評価」と「製品評価」の2つの評価を併せて総合評価を行います。



製品評価

製品評価を行う際には、できる限りその製造段階に遡った評価を併せて行うことが必要です。従って下のチャートの各段階について評価を行います。また製品評価を行う環境項目は「有害物質」「リサイクル」「省エネルギー」等を取り上げています。



ただし、「製造」及び「輸送」については、情報が十分に得られない可能性が高いため、将来的な課題とし、現段階では除外して考えます。

製品評価表

企業姿勢評価

評価は製品だけでなく、企業も対象としています。製品について評価が同じでも、環境への取り組み方が良い企業の方が、将来の向上可能性があり、社会全体にとって望ましいと考えるからです。

グリーン購買対象物品

現在の対象物品は以下の通りですが、品目については順次拡大を図っていく予定です。

ハードウェア	事務用品
1 パソコン 国際調達TRI対象商品	6 筆記用具
2 ワークステーション 国際調達TRI対象商品	7 ノート・ファイル
3 プリンタ 国際調達TRI対象商品	8 コピー用紙
4 モデム 国際調達TRI対象商品	9 紙製品(封筒)
5 ハードウェアリース	10 紙製品(袋)
	11 紙製品(箱etc)
	12 トナーカートリッジ
	13 名刺

ムダなエネルギー消費をなくすとともに、 省エネ機器などの導入により、着実に省エネを

進めています。



照明 / 昼休み時間帯の消灯、 帰宅時の各自周辺の消灯

省エネルギー対策の一環として、昼休み時間帯の消灯を励行しています。昼休みは休息の時間として、電気を消してゆっくり休みましょう、というわけです。また、帰宅時には各自周辺の照明を消し、パソコン等機器の電源OFFも確認。点検票をつくって、帰りにチェックしている部署もあります。



省エネルギー対策

省エネルギー対策としては、以下の草の根的な活動を中心に行っており、着実に成果を上げています。

パソコン / 未使用時電源OFF

当社では、従来からオフィス業務の効率化を進めてきており、1人1台以上のパソコンが配備されています。一方で、パソコンは立ち上げに時間がかかるため、外出の際などもつい電源を入れたままにしがちです。仕事の効率化と電気使用量の削減という相反する問題を視野に入れながら、極力無駄な電気使用をなくすため、こまめに電源を切るようポスターなどで呼びかけています。



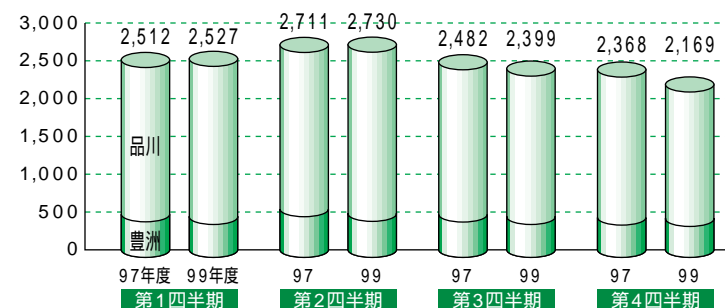
空調および冷暖房 / 温度調節の適正設定

空調の温度設定は、電気使用量に大きな影響を与えます。当社では豊洲センタービルにおいて、1999年度の夏季の室温設定を、従来の25度から26度に上げました。また、冬季は従来24度だったものを22度に下げました。「省エネルギー・省資源対策推進会議省庁連絡会議による産業界及び家庭への協力要請」によれば、夏季28度、冬季20度という数字がでていますが、今後はこれを目標にチャレンジしていくつもりです。

コピー機・プリンタ / 未使用時電源OFF

コピー機、プリンタ等の機器も待機時間が長いと、パソコンと同様無駄な電気を使用していることとなります。使用していないときの無駄をなくすため、定期的な見回りなどを通じて電気使用量の削減を図っています。

97・99年度の電気使用量の比較(単位:万kw/h)



99年度の電気使用量 目標達成状況

単位:kw/h	97年度	99年度目標	実績
豊洲	1,900万	1,840万 (3%減)	1,760万 (6%減)
品川	8,200万	8,000万 (3%減)	8,060万 (2%減)

両面コピーや「かえ～るBOX」の設置、さらには電子メールの利用などで、着実に紙利用を削減しています。

コピー用紙購入量削減&コピー用紙リサイクル



大量のコピー用紙を使用しています。

当社は、情報システムの企画・提案、開発を行っています。このため、お客さまへの提案書・企画書や、開発過程での設計書等のコピーが必要となり、大量の紙資源を消費しています。コピー用紙だけを見ても、一人当たりの使用量がゆうに1万枚を超えており、紙使用量の削減が課題となっています。

使用量、購入量の削減に努めています。

本来情報システムは、紙資源の使用を抑制する役割を果たします。しかし、いまはまだ本来の目的が果たせていないのが現状です。当面の目標として、コピー用紙の使用量、購入量の削減を掲げています。しばらくは、このような草の根的な活動を積み重ね、一方で、社内の情報化を推進しながら、情報システム本来の目的である紙使用の大幅な抑制をめざしています。

裏面利用のためのBOXを設置しています。

社内で利用するものについては、極力両面コピーするようアナウンスしています。また、裏面も利用するために、片面だけ印刷（使用）した用紙をストックする「かえ～

るBOX」を設置し、できるだけ裏面利用を促進しています。



使用済み用紙の再生率向上に努めています。

使用済みコピー用紙は、リサイクルに回しています。NTTグループでは、古紙を回収して再生紙に生まれ変わらせるリサイクルに独自に取り組んでおり、当社から出た使用済みのコピー用紙は、再びファイルやコピー用紙等として帰ってきています。

コピー用紙以外のリサイクルも進めています。

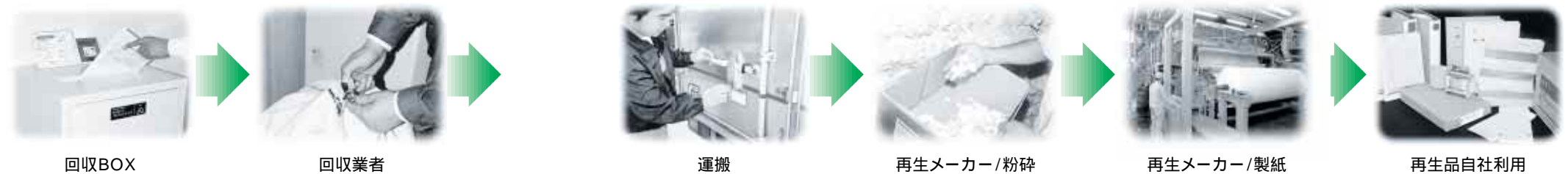
新聞・雑誌・OA用紙といった形できめ細かく分別を行っています。また、機密書類については特別のBOXを用意。特定の契約業者に依頼して、これも最終的にはリサイクルに回るようにしています。



99年度のコピー用紙購入量 目標達成状況

単位:枚	97年度	99年度目標	実績
豊洲・品川	4,200万	4,000万 (5%減)	4,100万 (2%減)
再生紙利用率	56%	80%	98%

コピー用紙 自社リサイクルの流れ



環境教育の実施

当社では、社員の環境に関する意識を高めるため、環境教育を実施しています。下の表にもありますが、昨

年度は延べ100回の教育・研修を開催。まだ歴史は浅く、課題も多くありますが、独自のテキストを作成するなど、当社なりの工夫を凝らしながら、着実に社員の意識向上に努めています。



環境保護ハンドブック



環境教育の様様



ごみ分別ポスター



環境保護推進者カード

NTTデータ環境教育の実施状況(講義・自主学習含め)

		開催回数	社員	協働者	合計
一般環境教育		31回	1,771名	546名	2,317名
特定環境教育	廃棄物処理	9回	325名	222名	547名
	システム機器開発	35回	651名	337名	988名
	グリーン購買	16回	79名	46名	125名
	FM業務	9回	135名	11名	146名

環境情報の公開

当社の環境保護活動について、社内での啓発はもとより、社外への活動を紹介する意味で、情報誌「Data Eco」を定期的に発行しています。一昨年から発行を始め、現在第11号に達しています。その他にも、環境

ビジネスの取り組みを紹介する「Data Eco Business」やホームページでも広く環境活動を公開しています。当社では、情報発信をこのような形で継続的に実施していきます。



Data Eco



Data Eco Business



環境関連ホームページ

環境ビジネスの実例

当社では、これまでの情報システム構築のノウハウ・技術を活用し、環境保護に資するための情報システム等の企画・提案を進めています。社内では、全国の担当者が定期的集まって議論を重ねており、さらに社外への情報発信として「Data Eco Business」を発

行しています。

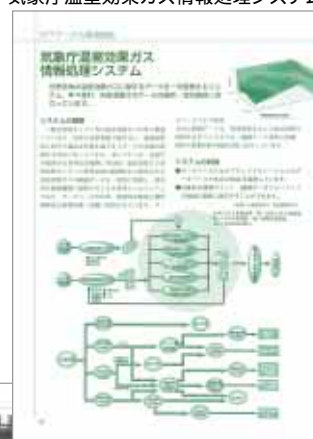
お客さまへのテーマ別アンケート等も実施しており、この活動の中から、さらに環境保護に資する有効な情報システムが生まれてくることを期待しています。

当社の主たる環境関連商品(環境保護に資する情報システム)

気象庁温室効果ガス情報処理システム



AMEDAS



環境情報システム



ECOTOWN

容器リサイクル



INTRAMART



社会貢献活動

当社では、ボランティア団体、社会福祉関係への寄付、地域の環境保護活動への参加などに着実に取り組んでいます。1999年度の主な活動の状況は以下の通りです。

全国的な活動

- ・カレンダー余剰分を「江東区社会福祉協議会」へ寄付(12月)
- ・クリスマスチャリティー活動として「Save the children」へ家庭不要品・新品等を寄付(12月)
- ・グリーンマーク収集(通年)
- ・中古パソコンのリサイクル(随時・計330台)
(日本障害協議会、メディア推進センタ等へ)
- ・中古事務机、椅子、棚等230台を社内他部署で利活用

中国支社

- ・「広島平和記念公園」清掃活動参加(8月・24名)



東日本支社

- ・「クリーン・ザ・日本海」寄付

関西支社

- ・「緑の募金」への寄付(4月)

四国支社

- ・「松山市民大清掃」に参加(7月・5名)
- ・高松市「地球に優しいオフィス」に登録(9月)



九州支社

- ・「ラブアースクリーンアップ」清掃活動(6月・23名)



本社

- ・財団法人 日本自然保護協会に
総額10,000,000円を寄付
- ・日本砂漠緑化実践協会に
総額8,097,000円を寄付

(期間:1999年4月~12月)

CHECK

何が変わったか、変わらなかったか
環境活動元年といふべき1999年度を
総括してみました。

環境管理責任者が、1999年度の 環境活動について、ふりかえりました。

1. 全般的な所見

早いもので、1998年4月の環境保護推進室の発足から2年が経過しました。この間、1年目は環境保護活動の3本柱を打ち立て、ISO14001審査登録活動を重点的に進めました。その結果、1999年7月には本社ビル・豊洲・品川ビルとして、ISO14001審査登録を行うことができたわけです。1年目は、いわば「形作りの年」であったといつてよいでしょう。

それとの比較でいえば、2年目は「実行の年」であったといえます。この環境レポートの内容を見ていただければお分かりのように、当社の環境保護活動は一步ずつではありますが着実に進展しています。電気・紙資源の節減、廃棄物削減など、草の根的な環境活動は予想以上に効果を上げています。また、当社の事業活動の中核であるシステム・機器開発についても、お客さまにシステムをご提供したあとの環境影響低減のための施策が進められつつあります。当社社員の協力に感謝するとともに、何かとご指導いただいた外部の皆さま方にも、この場をおかりして御礼を申し上げます。

2. 今後の活動の課題

これまでの活動の成果を踏まえ、3年目は「充実の年」にしたいと考えております。ISO14001審査登録の範囲を支社等にも拡大していくとともに、草の根的な活動を一層活発化させる施策も展開してまいります。

また、今回こういう形で環境レポートを発行させていただきましたが、環境会計の取り組みなどさらに環境に関する情報収集の仕組みを充実させ、関係の皆さま方の情報公開ニーズに十分にお応えしていきたいと考えています。



環境保護推進室 室長
山本 勝己

社員の環境意識アンケート調査について、 エコ・プロモーターの座談会を開き、意見を聞

きました。



まだ始まったばかりの当社の環境活動についての意識を、さらには社員ひとり一人の環境への意識を少しでも多く知ることができたらと考え、全社員を対象に「環境意識に関するアンケート調査」を実施しました。対象者は10,752人、回答者は3,635人、回答率は約33.8%という結果でした。社員の皆さんからは、おしかりをいただいたり、賛同や励ましをいただいたり、とさまざま

な意見が寄せられました。このアンケート結果や意見について、社内公募の「エコ・プロモーター」による座談会を開き、このアンケート結果に対する感想や当社の環境活動の問題点、これからの活動の方向性などについて意見を出してもらいました。なお、「環境意識に関するアンケート調査」のデータについては、P36～42でご紹介します。

が問題だと思えますね。できれば、誰もが忙しいような時期は、これからは避けた方がいいと思えますね。
大川口 確かにサイレントマジョリティという見方もあるわけで、手放して喜べないというのはもっともだと思います。逆に、7,000人の社員が、環境への意識が低いとすれば、それをどうするかが、課題として考えられると思うのですが。
山田 この種のアンケートで、全社員を対象にした場合、悪い数字ではないと思えます。回答も、マジメに記入したものが多く見られ、私はかならず評価できると思えますね。今回は回収期間が2週間でしたが、仕事の波を考えると、それももう少し延ばせば、さらに回答しやすくなると思えますし。

悲観したものではないと思えます。実際、私はビル管理に携わっているのですが、たとえば当社のオフィスは、紙のリサイクルBOXが設置されていて、非常に成果が上がっています。私が関わっているビルには、一般のお客さまが入居しているものもあるのですが、そちらと比べても意識は高くなってきていると、私は感じます。ただ、当然未熟な部分もあるので、それに関しては、さらに社員の皆さんに協力してもらい必要があるとは思いますが。

大川口 おっしゃるように、コピー用紙などは目標には達していませんが、それなりに成果が上がっています。2000年度、さらに本格的な施策を打てば、目標達成はできるのではないかと考えています。しかし、電気節減は苦しいですね。特に、品川ビルのマシン室については、コンピュータが高温を嫌うという問題もあって、有効な手だてが見つからず、苦戦しているのが現状です。

飯塚 コンピュータは、古いものほど熱を嫌います。新しいものはダウンサイジングも進み、設置間隔なども充分取れるようになってきているのですが、古いマシンについては躯体も大きく、冷却装置の問題などもあり難しいと思えます。しかし、設備そのものの入れ替えも徐々にですが進んでい

向江 私の印象は、当社の具体的な取り組みを知らない人が、意外に多いような感じもします。『スマートドライビング・アクション』『パワーセービング・アクション』『ペーパーセービング・アクション』など、用語の問題が大きかったのかなという気もしますが。

大川口 確かに、それもあるかもしれません。言葉がイメージ重視の表現に陥ったために分かりにくく、独り善がりになっていたかもしれません。

飯塚 話は変わりますが、私は今回ISO14001認証を取得したということで、社員の意識がだいぶ変わってきたな、という感じがします。以前の豊洲・品川ビルはもっと意識は低かったと思えますし。そういう点からすれば、今はISO14001認証を取得しているのは豊洲・品川ビルだけですが、これから三田、築地、品川ANEXなどでもISOに取り組んでいくことを考えると、

以前の豊洲・品川ビルはもっと意識は低かったと思えますし。そういう点からすれば、今はISO14001認証を取得しているのは豊洲・品川ビルだけですが、これから三田、築地、品川ANEXなどでもISOに取り組んでいくことを考えると、

以前の豊洲・品川ビルはもっと意識は低かったと思えますし。そういう点からすれば、今はISO14001認証を取得しているのは豊洲・品川ビルだけですが、これから三田、築地、品川ANEXなどでもISOに取り組んでいくことを考えると、



出席者氏名 (五十音順)

荒木 勉 / COEシステム本部
飯塚 成孝 / ファシリティマネジメント事業部
上野 彰子 / 公共システム事業本部
馬場 紀江 / 新世代情報サービス事業本部

向江 正生 / 公共システム事業本部
柳川 正宏 / 産業システム事業本部
山田 英二 / システム科学研究所
司会:大川口 悦弘 / 環境保護推進室

大川口 当社としては、はじめて『環境意識に関するアンケート調査』を実施したわけですが、この結果について、皆さんの忌憚のない意見をお聞きしたいと思います。

荒木 回答の3,600件という数字は、それなりにいいような気もするが、果たして評価すべき数字なのかどうか。もともとアンケートは興味のある人しか回答してこないという側面もあるので、回答していない17,000という数字が気になるし、私自身はあまり喜べないと思えますね。

馬場 私は、全体としては、予想以上の反応だったと思えます。もともと関心のある人が回答しているから、という話もありましたが、時期的な問題や豊洲・品川ビル以外(ISO14001認証の対象外)の回答が多かったことなど、かなり評価すべきところはあると思えます。実際、アンケートはこれがはじめてなので、二度、三度と続けることで、これからさらに意識が高めていければいいんじゃないでしょうか。

上野 アンケートの時期が悪かったかなと思えます。年度末の3月下旬だったこともあり、私は10%程度ということもあるのでは、と危惧していました。

荒木 私は、時期的なものかどうかというのは、また別の次元じゃないかなと。忙しいから答えないとか、暇だから答えるというのでは、やはりその程度の意識しかないということ、ただ数字を高めるのが目的じゃないと思うんですよね。そういう点では、いつということではなく、やはり定期的に調査をしていくことが大事なんだと思えます。

馬場 確かにそういう考え方もあるかもしれません。しかし、多くの方が答えられる時期に実施して、より多くの人々の意識を知る方が、正確な実態が把握できる面もあると思うのですが。

柳川 そうい点では、答えたいけど、答えられないという、忙しい状況の人もいるので、その人たちが答えられない方





ますので、その辺もこれからかなり改善されるのではないのでしょうか。

向江 特に、古いマシンと新しいマシンが一緒にある場合は、どうしても古いマシンの方に環境を合わせなければならないという問題もあり、過渡期としてやむを得ない面もあると思います。サーバをダウンさせるわけにはいきませんしね。

柳川 確かにサーバールームは冷やさなければいけない、という考え方が一般的です。しかし、お客さまの中には、サーバをオフィスの片隅において使用しているような場合もあって、それでも問題なく稼働しているんですね。そういうことを考えると、今のサーバは人間と同じ環境で十分耐えられるマシンもあるので、その辺はウチとメーカーとで協議しながら、マシン室の温度についての常識みたいなものを変えていき、広く一般に広めていくのも意味があると思いますね。

上野 私が目についたのは、年代別の関心を分析したところなんですが、これを見ると、若い層ほど関心が薄く、年代が上がるほど関心が高くなっています。また答えを見ると、『何をやっているのかわからないので関心がない』という答えも結構ありました。だから、やっている人が、どんなことをしているのかを知らせる、あるいはアピールする取り組みも必要じゃないかと感じているのですが...

柳川 今回のアンケート結果を、どうにかして社員に公開するようになりたいと思いますね。せっかくこれだけのデータおよび意見が集まったのだから、知らせないのももったいないと思いますね。

荒木 改めて見てみると、フリーアンサーが多いのには驚くね。けっこうな文字数の文章を書いてあるものも多く、こういふ意見を公開するのはいいことだと思う。おんなじYesや



Noでも、ひとり一人の意識の深さや考えの違いもわかるし、ぜひ公開してもらいたいと思う。

大川口 それは、社内の情報誌である「Data Eco」で紹介するとか、ホームページに掲載するとか、方法を検討します。どちらにしても、たくさんの情報が集まったので、これを活かす方向で考えたいと思います。もう一つの方法としては、各職場に『環境推進者』という、草の根的な活動の協力者を配置するように話を進めていますので、それが実現すれば、数百の窓口ができるので、かなりスムーズにアナウンスできるようになると思います。

荒木 ほとんどの質問では、豊洲・品川ビルと、それ以外であまり大きな変化は見られません。しかし、『紙資源節約』や『ISO14001』の質問では、豊洲・品川ビルの方が回答率が高い。このことから推測すると、

具体的な取り組みが社員の意識に与える効果はかなり大きいと考えられるわけで、そういう意味では、ISO14001の認証に関わらず、新しく設けた『環境推進者』などを通じて各職場で具体的に行動を起こすようにしていけば、おのずと意識は高まっていくと思う。

柳川 具体的な行動ということでは、たとえばコピー機やプリンタにしても、両面印刷ができるものと、裏面印刷を



すると詰まりやすいものがあるなど、ハード面の問題もあると思います。新規に購入する場合も、両面が使えるタイプは価格的な問題があることもありますし、購入の了承を取りつけるのも、難しいところがあります。

飯塚 そういう意味では、各職場のリーダーの方には意識を変えていただくことも必要かもしれない。リーダーの意識が高く、両面印刷などに配慮していれば、そうした問題

も比較的容易にクリアできるし、下の者も実務レベルで対応しやすくなるのでは、『めんどくさい』というような実務レベルのことも、ハード面でカバーすることも可能になると思うのだが。

上野 実際、ここには両面印刷や縮小印刷をしているという答えが多いのですが、私の職場ではあまり浸透していないんですね。

馬場 確かに裏紙印刷をしようとして失敗すると、

かえってムダを増やすことになったり、紙詰まりなどのトラブルを起こすこともあるので、そういうことを嫌う人もいます。

柳川 そういう点では、社内でインセンティブを設け、努力した部署などには、機器の購入に際してポイントに応じて補助が出るような仕組みが、あってもいいのではないかと思います。会社としての姿勢を明確に打ち出すためにも、インセンティブや購入基準の枠組みなどを具体的にしても



raitaiという気がします。

大川口 おわかりとは思いますが、グリーン購買には積極的に取り組んでいます。しかし、実際問題として、古い機種を早急に新機種に変えることはできませんので、機器に関しては徐々に時間をかけて取り組むことになると思います。また、現在はコピー機やプリンタも、両面印刷できる機種だけに限定はしていないので、機種選定は各職場での対応になっています。インセンティブについては、もう少し時間をかけて検討していきたいと思います。

上野 やはり会議・ミーティングなどはもちろん、企画・設計提案なども紙を配らずにすむようなシステムなり、仕組みを早急に作るべきではないかと思います。これは結構前からいわれていることだと思うんですが。

大川口 当社ではまず常務会がペーパーレスになりました。これはひとつの試みですが、徐々に広がってくれればいいと思っています。

馬場 実際、なかなか変わりきれないというところもありますね。メールにしても、できるだけ出力しないというような小さな行動を積み重ねていく必要を感じます。

大川口 今日は、皆さんにいろいろと貴重な意見ならびに感想をいただきました。回答件数については、定期的にアンケートを行っていく中で、これからの課題とさせていただきますし、集まったデータや意見については、何らかのカタチで公開できるように検討したいと思います。また、ISO14001の対象外でも、どんどん具体的な活動が推進できるよう、体制づくり先を進めて行きたいと思っています。皆さん、本日はどうもありがとうございました。



会社としてはじめて、環境への意識に関する

社員アンケート調査を実施しました。

ひとり一人の環境への意識を知るために、全社員を対象に、はじめてのアンケート調査を実施しました。アンケートは電子メールによって行い、対象人数は10,752人、うち回答は3,635人で、回答率は33.8%という結果でした。アンケート内容および主な回答の集計データについては、以降で紹介いたします。

アンケート内容

アンケートの1~7は、所属ビル、部署名、役職、性別、年齢、既・未婚、子供の有無といった基礎データ項目のため、詳細は省略させていただきます。また、上記の基礎項目を省いた以下の11項目についてのアンケート結果については、次ページ以降で紹介いたします。

8. 環境問題に関心はありますか?

とても関心がある 少しか関心がある あまり関心がない まったく関心がない

9. 問8で(とても、少し)関心があると答えた方 / どのような環境問題に関心がありますか?(複数回答可)

地球温暖化 森林破壊 大気汚染 水質汚濁 オゾン層の破壊 海洋汚染 廃棄物汚染
 土壌汚染 ダイオキシン問題 環境ホルモン問題 酸性雨問題 その他

10. 職場で環境に配慮した行動をとっていますか?

熱心に配慮している ときどき配慮している あまり配慮しない まったく配慮しない

11. 問10で(熱心に、ときどき)配慮していると答えた方 / 具体的にどのような配慮をしていますか?(複数回答可)

ごみ分別 紙資源節約 消費電力節約 コピーミス防止に配慮 廃棄物削減 アイドリングストップ
 最後に退出する場合は消灯 その他、あなたの環境配慮方法がありましたらご記入ください。

12. 問11で(紙資源節約)と答えた方 / 具体的にどのような取り組みですか?(複数回答可)

用紙の裏面を利用 両面コピー コピーミス防止に配慮 その他、あなたの取り組み方法がありましたらご記入ください。

13. 問10で(あまり、まったく)配慮しないと答えた方 / 理由をお答えください。(複数回答可)

めんどくさい(手間がかかる) 自分に身近な問題ではない 費用(経費)がかかる 自分にできることはない その他

14. 日常生活で環境に配慮した行動をとっていますか?

熱心に配慮している ときどき配慮している あまり配慮しない まったく配慮しない

15. 問14で(熱心に、ときどき)配慮していると答えた方 / 具体的にどのような配慮をしていますか?(複数回答可)

ごみ分別 ごみ削減 リサイクル(古紙、食品トレー、ペットボトル等) 消費電力節約
 風呂水などの利用 アイドリングストップ フリーマーケット 環境NGOに参加している
 その他、あなたの環境配慮方法がありましたらご記入ください。

16. 当社が実施している環境保護活動について知っている項目をお答えください。

グリーン購入の適用 環境に優しいシステム・機器開発の実施 社内レンタル・リサイクル制度の整備
 スマートライティング・アクションの実施 パワーセービング・アクションの実施
 ペーパーセービング・アクションの実施 廃棄物の適正処理の整備

17. 国際標準化機構(ISO14001)について

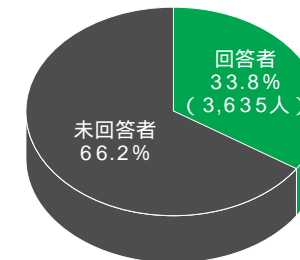
以前からよく知っていた 当社取得にあたって知ることになった 何となくわかる 聞いたことはある
 知らない 忘れた

18. 品川、豊洲ビル在籍の方 / ISO取得活動で感じたこと、意識が変わったことなどはありますか?

以上の11項目(1~7の基礎項目を含まず)について聞きました。

アンケート回答率

全 体

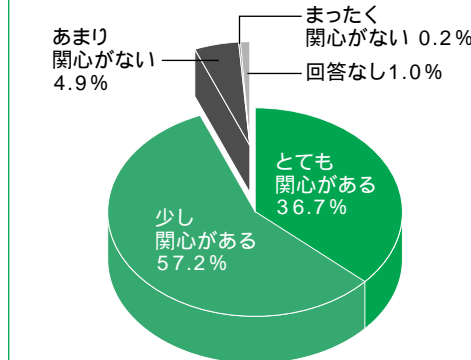


全体の回答率にくわえ、ISO14001を取得した豊洲・品川ビル入居組織と、それ以外のビル入居組織の回答率も集計、比較してみました。ビル別の回答率では、「豊洲・品川ビル入居組織」が27%、「それ以外のビル入居組織」が36%。意外にも、ISO14001を取得している「豊洲・品川ビル入居組織」の回答率が低いという結果となりました。

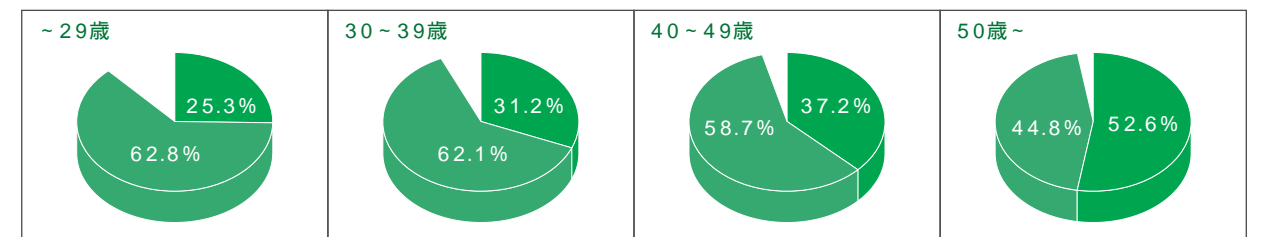
入居組織	対象者	回答者	未回答者	回答率
全 体	10,752人	3,635人	7,117人	約33.8%
豊洲・品川ビル	2,716人	732人	1,984人	約27.0%
豊洲・品川ビル以外	8,036人	2,903人	5,133人	約36.1%

Q8. 環境問題に関心はありますか?

全 体 / サンプル数:3,635



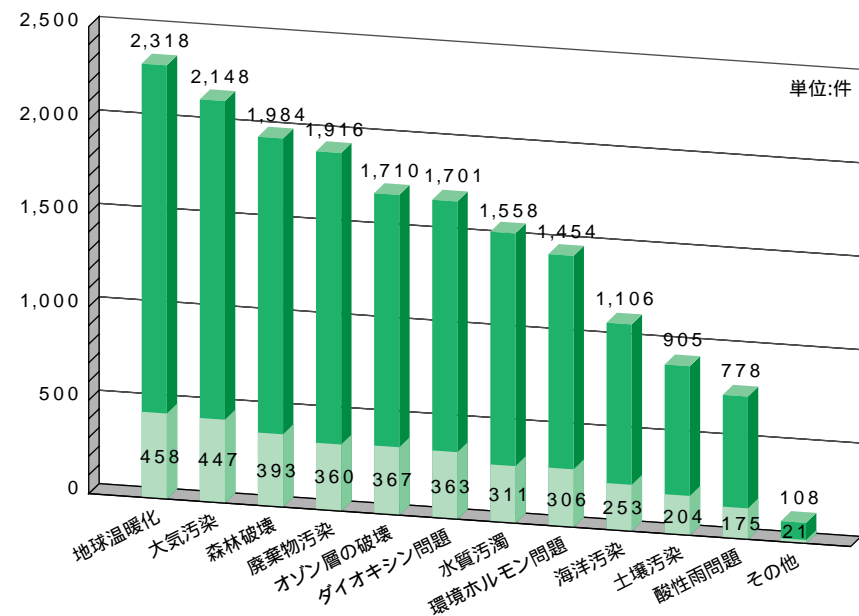
全体では、回答者の約94%が、「関心がある(とても、少し)」と答えています。また、回答について、年代別で集計、比較した結果は以下の通りとなり、関心の高さは年齢の高さに比例していました。特に、50歳以上では、「とても関心がある」が約53%という高い数値になりました。



年 齢	とても関心がある	少しか関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	回 答 な し
~ 29歳 サンプル数:758	192人(約25.3%)	476人(約62.8%)	58人 (約7.7%)	1人(約0.1%)	31人(約4.1%)
30~39歳 サンプル数:1,063	332人(約31.2%)	660人(約62.1%)	68人(約6.4%)	3人(約0.3%)	0人(0%)
40~49歳 サンプル数:933	347人(約37.2%)	548人(約58.7%)	33人 (約3.5%)	1人(約0.1%)	4人(約0.4%)
50歳~ サンプル数:881	463人(約52.6%)	395人(約44.8%)	18人(約2.0%)	2人(約0.2%)	3人(約0.3%)
合 計 サンプル数:3,635	1,334人(約36.7%)	2,079人(約57.2%)	177人(約4.9%)	7人(約0.2%)	38人(約1.0%)

Q9. 問8で環境問題に(とても、少し)関心があると答えた方 / どのような環境問題に関心がありますか?(複数回答可)

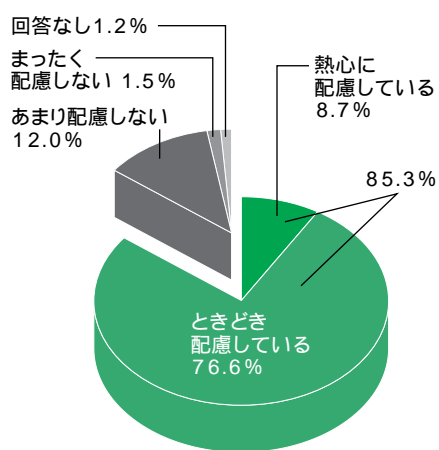
全 体(■ は豊洲・品川ビル)



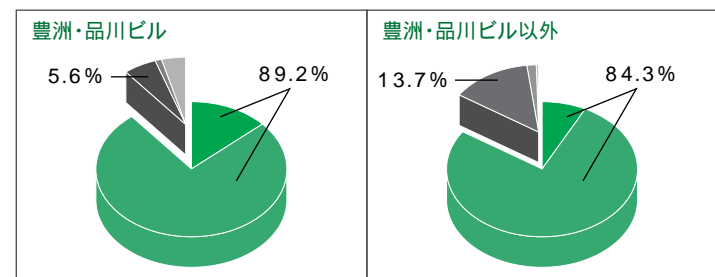
関心の高いテーマは、地球温暖化、大気汚染、森林破壊、廃棄物汚染、オゾン層の破壊とダイオキシン問題がほぼ同じで上位に入り、回答者の過半数を超える人たちが関心を持っていました。その他(108件)で多かったテーマは、「ごみ・リサイクル関連」(28件)、「生態系・河川・自然関連」(26件)、「遺伝子組換」(12件)でした。

Q10. 職場で環境に配慮した行動をとっていますか?

全 体/サンプル数:3,635



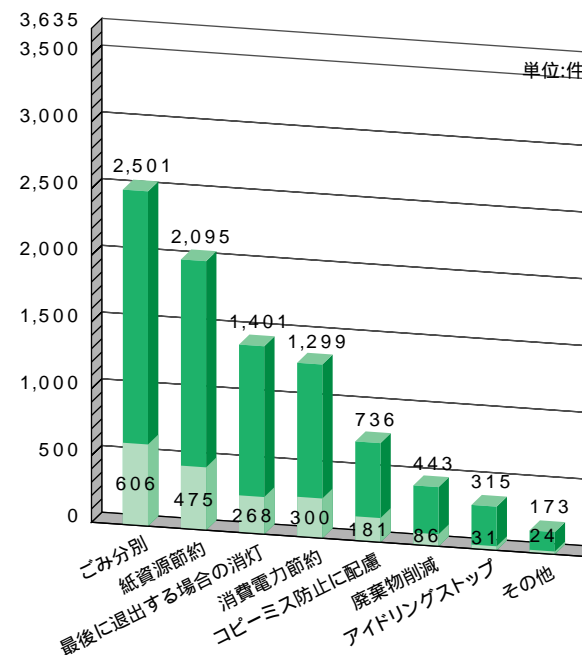
全体で、回答者の約85%が「職場で環境に配慮している」と答えています。これも豊洲・品川ビル入居組織と、それ以外のビル入居組織の回答も集計、比較しました。その結果、「職場で環境に配慮している」では、ISO14001取得の影響か、豊洲・品川ビル入居組織が約5ポイント高く、一方「あまり配慮しない」は、それ以外のビル入居組織が約8ポイント高いという結果になりました。



入居組織	熱心に配慮している	ときどき配慮している	あまり配慮しない	まったく配慮しない	回答なし
豊洲・品川ビル	98人(約13.4%)	555人(約75.8%)	41人(約5.6%)	8人(約1.1%)	30人(約4.1%)
豊洲・品川ビル以外	217人(約7.5%)	2,229人(約76.8%)	397人(約13.7%)	47人(約1.6%)	13人(約0.4%)
合 計	315人(約8.7%)	2,784人(約76.6%)	438人(約12.0%)	55人(約1.5%)	43人(約1.2%)

Q11. 問10で職場で環境に(熱心に、ときどき)配慮していると答えた方 / 具体的にどのような配慮をしていますか?(複数回答可)

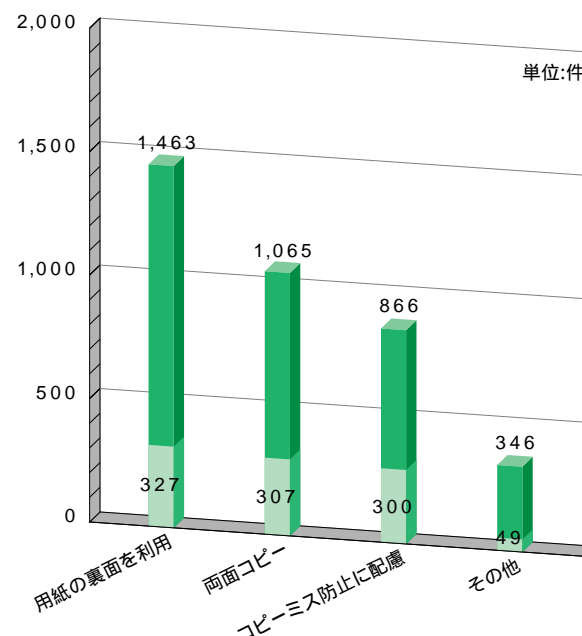
全 体(■ は豊洲・品川ビル)



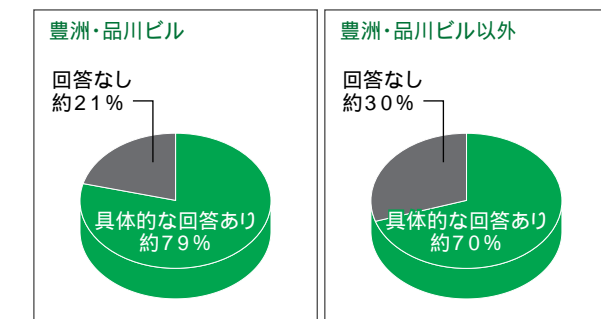
(熱心に、ときどき)配慮していると答えた方は、アンケート回答者の約84.3%にあたる、3,065人でした。その人たちが取り組んでいる上位3テーマは、ごみ分別、紙資源節約、最後に退出する場合の消灯でした。その他(173件)で多かったテーマは、「ごみを出さない」(94件)がトップで、次いで「節水」「車に乗らない・控える」(各9件)でした。

Q12. 問11で(紙資源節約)と答えた方 / 具体的にどのような取り組みですか?(複数回答可)

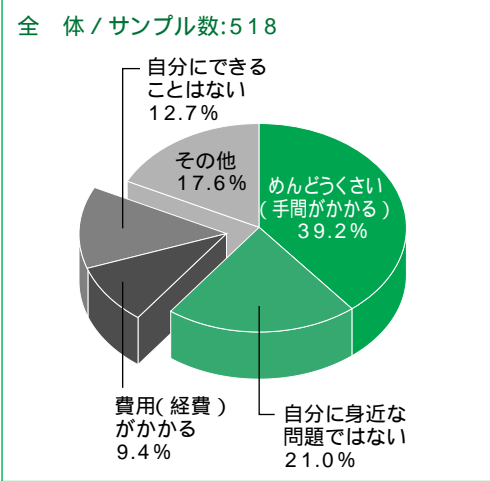
全 体(■ は豊洲・品川ビル)



ISO14001を取得している豊洲・品川ビル入居組織と、それ以外のビル入居組織の回答率についても集計、比較しました。その結果、豊洲・品川ビル入居組織が具体策の回答率が約9ポイント高い数値が出ました。また、「その他」(346件)の具体策では、「プリントアウト・コピーを抑える」(153件)、「縮小して両面コピー」(72件)という取り組みが多くありました。



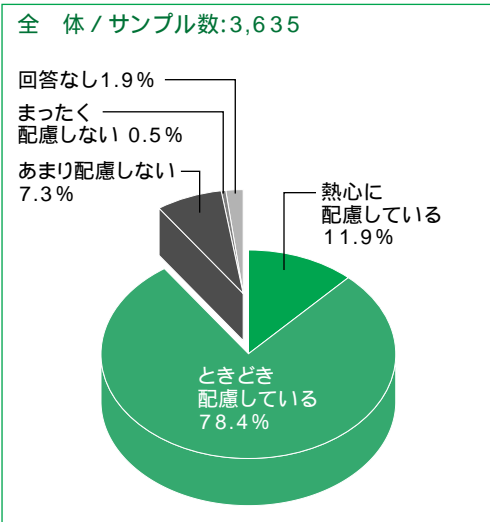
Q13. 問10で職場で環境に(あまり、まったく)配慮しないと答えた方 / 理由をお答えください。(複数回答可)



(あまり、まったく)配慮しないと答えた人は493人で、複数回答があるためにサンプル数は518となっています。配慮していない理由としては、「めんどくさい(手間がかかる)」がトップで、配慮していない人全体の約5分の2を占める結果となりました。その他では、意外にも「費用(経費)がかかる」という答えと、「自分にできることはない」という答えが、合わせて約22%ありました。

入居組織	めんどくさい(手間がかかる)	自分に身近な問題ではない	費用(経費)がかかる	自分にできることはない	その他
豊洲・品川ビル	26件(約47.3%)	11件(約20.0%)	7件(約12.7%)	4件(約7.3%)	7件(約12.7%)
豊洲・品川ビル以外	177件(約38.2%)	98件(約21.2%)	42件(約9.1%)	62件(約13.4%)	84件(約18.1%)
合計	203件(約39.2%)	109件(約21.0%)	49件(約9.4%)	66件(約12.7%)	91件(約17.6%)

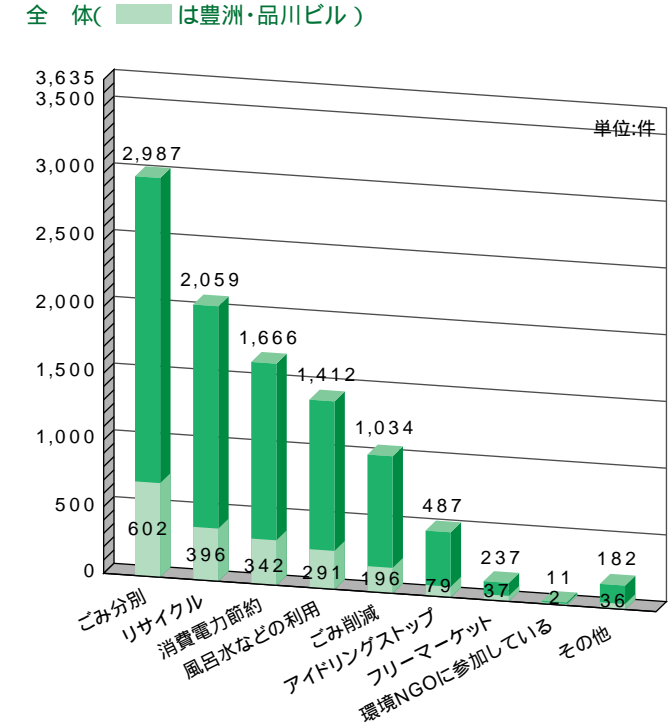
Q14. 日常生活で環境に配慮した行動をとっていますか?



回答者の約90.3%の人が日常生活で環境に配慮した行動をとっており、職場で環境に配慮している人(約85.3%)を上回りました。一方で、「環境問題に関心がある」(93.9%)と答えた人にと比べると、「行動をとっている」(約90.3%)と答えた人は、若干少なくなっています。また、問8で「環境問題に関心がある」と答えたのと同様に、年代別で集計、比較した結果、ここでも行動は年齢の高さに比例していることが分かりました。

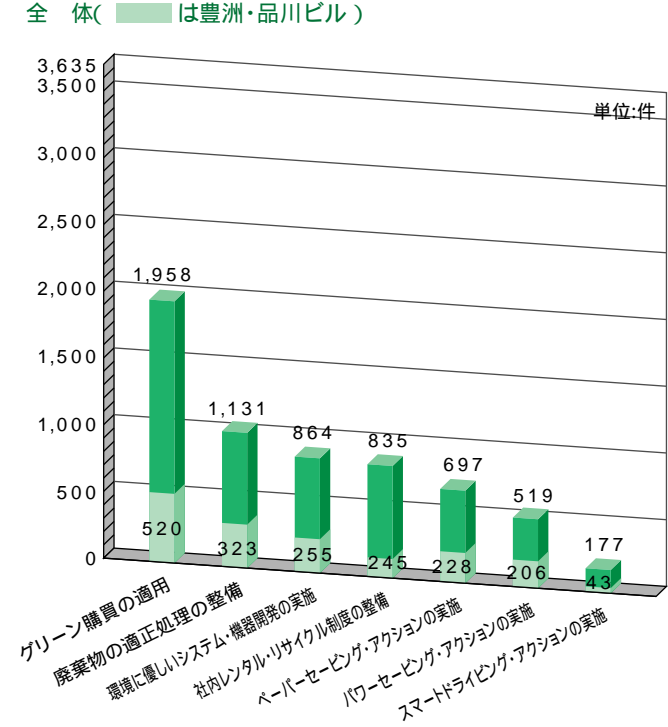
入居組織	熱心に配慮している	ときどき配慮している	あまり配慮しない	まったく配慮しない	回答なし
豊洲・品川ビル	97人(約13.3%)	554人(約75.7%)	45人(約6.1%)	2人(約0.3%)	34人(約4.6%)
豊洲・品川ビル以外	336人(約11.6%)	2,296人(約79.1%)	220人(約7.6%)	17人(約0.6%)	34人(約1.2%)
合計	433人(約11.9%)	2,850人(約78.4%)	265人(約7.3%)	19人(約0.5%)	68人(約1.9%)

Q15. 問14で日常生活で環境に(熱心に、ときどき)配慮していると答えた方 / 具体的にどのような配慮をしていますか?(複数回答可)



「ごみ分別」(2,987件)は、回答者の約82.2%の人が実践していました。また、「リサイクル(古紙、食品トレイ、ペットボトル等)」(2,059件)は約56.6%、「消費電力節約」(1,666件)は45.8%の人が実践しているという結果が出ました。

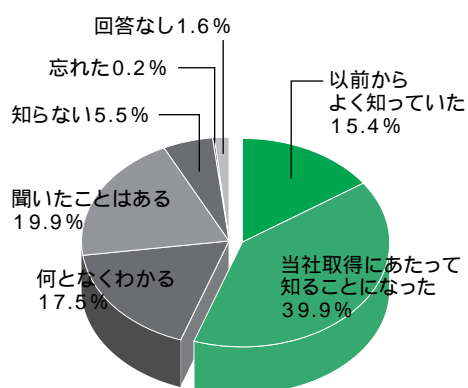
Q16. 当社が実施している環境保護活動について知っている項目をお答えください。



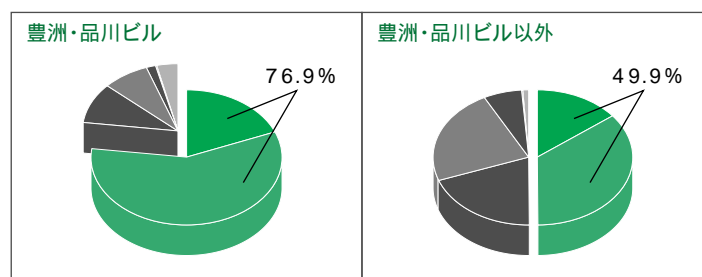
「グリーン購入の適用」がもっとも認知度が高いが、それでも約53%程度であることから、当社の環境保護活動への具体的な取り組みは、残念ながらまだ十分浸透しているとはいえないようです。

Q17. 国際標準化機構(ISO14001)について

全 体 / サンプル数:3,635



全体として、当社取得を機に認知が高まっています。ビル別の回答率では、ISO14001を取得している「豊洲・品川ビル入居組織」が「以前からよく知っていた」と「当社取得にあたって知ることになった」を合わせて約76.9%、「それ以外のビル入居組織」の49.9%と比べて27ポイントも差をつけました。



入居組織	以前からよく知っていた	当社取得にあたって知ることになった	何となくわかる	聞いたことはある	知らない	忘れてた	回答なし
豊洲・品川ビル	138人(約18.9%)	425人(約58.1%)	71人(約9.7%)	58人(約7.9%)	12人(約1.6%)	1人(約0.2%)	27人(約3.7%)
豊洲・品川ビル以外	420人(約14.5%)	1,027人(約35.4%)	565人(約19.5%)	664人(約22.9%)	188人(約6.5%)	7人(約0.2%)	32人(約1.1%)
合 計	558人(約15.4%)	1,452人(約39.9%)	636人(約17.5%)	722人(約19.9%)	200人(約5.5%)	8人(約0.2%)	59人(約1.6%)

Q18. 品川、豊洲ビル在籍の方 / ISO取得活動で感じたこと、意識が変わったことなどはありますか？

ISO取得が目的ではないが、それが目的となってしまう傾向があり、本質的問題を意識する必要がある。そのため、さらなる意識向上への施策が必要。

単なる身の回りのケチケチ運動という低い意識ではなく、当社の事業として、環境保護のためのITをプロデュースして欲しい。

会社での取り組みにより、自宅でのごみの処分について見直したり、簡易包装を心がけるなど、私生活での意識も高まった。

紙使用量の月次報告などがあれば、削減効果の把握もできるし、次の目標にもなると思う。もっときめ細かな対応が必要。

冷房の設定温度が上がり、イヤでも実感できた。しかし、こうした「軽い」犠牲はやむを得ないと思う。

ゴミの分別廃棄、休憩時間の消灯、トイレのペーパータオルの廃止等は一定の成果を上げているのではないが、意識面では大きく変わっていない印象。

取得後に転動してきたため、取得活動に参加していないが、職場の人たちはごみの分別や、休み時間・長時間離席時のPC電源OFFなどを当たり前のように実施している。自分も自然と実施している。

紙の「かえ～るBOX」のように目につくところに環境保護を意識させるものがあるようになったことで、忘れず紙資源を大切にすることを行動につなげるようになった。

担当者ひとり一人の意識はまだまだ低い。これは環境保護活動に限ったことではないが、ひとり一人が社会人として何をすべきなのかの意識と常識がまだ低い。

環境に対する意識はこれまでもあったが、全社的な取り組みとして活動することにより、社員ひとり一人が何をすべきかがわかり、行動できるようになった。

ひとつひとつは大したことないでしょうが、いわれなければ気づかず過ぎてしまっていたと、認識させられた。自分には子供もいるので余計に後世のことが気になるのかもしれないが、いいきっかけづくりになっており、ふとした行動の端々で気をつけるように意識できるようになった。




多数の意見が寄せられた中からの抜粋です。

名 称	株式会社NTTデータ NTT DATA CORPORATION
本社所在地	東京都江東区豊洲3-3-3 豊洲センタービル
設立年月日	1988年(昭和63年)5月23日
資本金	1,425億2,000万円(2000年3月31日現在)
売上高	7,253億4,700万円(2000年3月期決算)
経常利益	346億9,600万円(2000年3月期決算)
従業員数	10,689名(1999年9月末日現在)
主な事業所	本社(東京) 北海道支社(北海道札幌市) 東北支社(宮城県仙台市) 東日本支社(埼玉県大宮市) 東海支社(愛知県名古屋市) 北陸支社(石川県金沢市) 関西支社(大阪府大阪市) 中国支社(広島県広島市) 四国支社(香川県高松市) 九州支社(福岡県福岡市) 英国支店(ロンドン) 香港支店(香港) マレーシア支店(クアラルンプール)



NTTデータの環境保護シンボルマーク
 関西支社 / 湯川 俊男さんの作品
 「やさしさをありがとう」

この冊子は、発行の必要上、多大な用紙・インクを使用しておりますが、地球環境保護へ次の対策を行っております。

<p>用紙</p> 	<p>紙</p> <p>エコマーク認定 再生紙の使用</p> <p>[認定機関] (財)日本環境協会</p>	<p>古紙を原料に紙を作る場合、木材から紙を作るのに比べてエネルギー消費量が少なく済み、環境への負担を低減します。</p>
<p>用紙の構成</p> 	<p>古紙配合率100% 再生紙の使用</p> <p>[認定機関] ごみ減量化推進国民会議</p>	<p>この紙はNTTデータから回収した古紙を混入したセルフリターンペーパーを採用し、環境保護に配慮しています。</p>
<p>印刷インク</p> 	<p>大豆油インクの使用</p> <p>[認定機関] アメリカ大豆協会</p>	<p>大豆インクは印刷インクに含まれる石油系溶剤の一部を大豆油に代替したものです。一般の印刷用インクよりも、大気汚染の原因の一つであるVOC(揮発性有機化合物)の発生が少なく、廃棄物としての処理も簡単かつ、紙と分離しやすい特性を持ち、リサイクルにも適しています。</p>

NTT
Data



株式会社NTTデータ

環境保護推進室

〒135-6033 東京都江東区豊洲3-3-3 豊洲センタービル

TEL.03-5546-8094 FAX.03-5546-8046

URL <http://www.nttdata.co.jp/>